



333 East 47th Street  
New York, NY 10017  
japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

配信日:2021年11月8日

プレス担当:

マリカ・絵美:(EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン(ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー (JS)  
舞台公演部 2020-2021 年度シーズン

現代日本戯曲: 英語版リーディング・シリーズ第16弾

松村翔子作

ジョーダナ・デ・ラ・クルーズ 演出

『こしらえる』

ANNUAL PLAY READING SERIES

*Cooking Up*

2021年12月6日(月)午後7時30分

全1回公演

ジャパン・ソサエティー (JS) 舞台公演部の年次恒例リーディング・シリーズ第16弾は、第62回岸田國士戯曲最終賞候補作品、松村翔子(演劇ユニット・モメラス主催、劇作家、演出)作の『こしらえる』を上演

します。本作の演出にあたるのは、ブルックリンにあるオビー賞受賞のパフォーマンス・スペース JACK の共同主催者でもあるアフロ・ラテン系の演出家ジョルダナ・デ・ラ・クルーズです。

本作品は、失踪した人気パティシエの穴を埋めようとてんでこ舞いするフレンチレストラン...という毒のないストーリー展開で始まり、シェフとパートのウイトレスの情事をきっかけに次第に変化。シェフの妻が「いなくなった飼い猫の代替に」と夫の浮気相手を家に住ませるあたりから、物語は急速にシュールな世界に突入していきます。現実と非現実が交差した作品で岸田國土戯曲賞に2年連続でノミネートされた松村翔子は、今年急速に頭角を現している若手演劇人です。演出を担当するジョーダナ・デ・ラ・クルーズは、昨年度シアター・コミュニケーション・グループからライジング・リーダー・オブ・カラー (Rising Leaders of Color) に選出された、注目のアーティストです。

上演後の質疑応答で劇作家の松村翔子と演出家のジョーダナ・デ・ラ・クルーズが登壇します。

### 《J-Culture から見るニューヨーク・アート その4》

現代日本戯曲：英語版リーディング・シリーズ

松村翔子作 / アマンダ・ワデル+JS 舞台公演部英訳/ジョーダナ・デ・ラ・クルーズ演出

『こしらえる』 (英題: *Cooking Up*)

日時： 12月6日(月)午後7時30分

\*上演後、劇作家の松村翔子と演出家のジョーダナ・デ・ラ・クルーズによる質疑応答あり

チケット料金：一般\$15 / JS会員\$10

会場： ジャパン・ソサエティー館内(333 East 47<sup>th</sup> Street)にて開催。

チケット情報：チケットに関する問い合わせや、公演の詳細は [www.JapanSociety.org/performingarts](http://www.JapanSociety.org/performingarts) または電話：212-715-1258 (月一金 午前9時-午後5時) まで。またはJSウェブサイト

[www.japansociety.org](http://www.japansociety.org)

### 【プロフィール】

松村翔子 (まつむら しょうこ)

演劇ユニット「モメラス」主宰・劇作・演出

1984年7月14日生まれ。神奈川県横浜市出身。十代より舞台俳優として東京の小劇場を中心に活動。

2004年、岡田利規作・演出 一人芝居『マリファナの害について』に出演し、以降、岡田利規が率いるチェルフィッチュの作品に多数参加。他には、岡崎藝術座、遊園地再生事業団、月蝕歌劇団、ポツドール等にも出演。2013年、演劇ユニット「モメラス」を結成し劇作・演出を始める。2017年、利賀演劇人コンクール

で上演したメーテル・リンク原作の『青い鳥』が優秀演出家賞一席受賞。上演台本『こしらえる』と『反復と循環に付随するぼんやりの冒険』が、それぞれ第63回(2019年)、第62回(2018年)岸田國土戯曲賞最終候補作品に選出される。

### **ジョーダナ・デ・ラ・クルーズ (Jordana De La Cruz)**

演出

アフロ・ラテン系の演出家であり、劇作品キュレーターかつプロデューサー。世代を超えたコラボレーション活動で、社会問題を引き起こす原因の根本を追究。また、異文化のパフォーマンスや集会、パブリック・プログラムを制作。公演、ワークショップやジャンルを問わない分野間の対話を通して「コミュニティー」という概念の定義を広げることを試みる。手がける作品では常に「自由であるということはどういうことなのか、その自由を勝ち取るためにお互いに何が出来るのか」という事を問い続けている。2015年から2018年の間、パーク・アベニュー・アーモリーにて、地域に密着したアート・プログラム事業のけん引役として従事。過去の演出やプロデュース作品はJACK、La Mama etc.、The Flea Theater、ITAI Theater、INTAR Theatre、The Story Pirates、Young Jean Lee's Theater Companyなどで公演された。

\*\*\*

#### **取材申し込み：**

上記公演の取材をご希望の方は、事前に必ずプレス担当：マリカ／ロッドマンまでEメールで

([EMarica@japansociety.org](mailto:EMarica@japansociety.org) / [ARodman@japansociety.org](mailto:ARodman@japansociety.org)) お申し込みください。尚、プレス席には限りがございます。満席の場合はご容赦ください。

\*\*\*

#### **JS舞台公演部について：**

JS舞台公演部は、1953年の創部以来、雅楽・能・歌舞伎・人形劇・三味線や落語などの古典芸能から最先端の現代劇、実験音楽やポップ・ミュージック、コンテンポラリー・ダンスまで、あらゆるジャンルの舞台公演を企画し、当館内劇場にて主催・上演。これまで700種に近いプログラムを米国の観客に紹介してきました。また、招聘したアーティストや団体のために巡回公演（ツアー）をプロデュースすることで、ニューヨークを越えた北米全土に対して日本の舞台芸術を紹介する役割をも果たしています。日本の優秀な若手アーティストにとっては国際的キャリアの登竜門として、また米国人アーティストには新作委嘱や交換レジデンシーなどを通じてより深い日本理解の機会を与える貴重な機関として、日米の舞台芸術界に比類のない貢献をしています。

## JSについて

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されているJS本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907年以来、JSでは「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は [www.japansociety.org](http://www.japansociety.org) をご覧ください。

JSは今年、ニューヨークのランドマークである本館設立50周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JSが文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

## 公式 SNS アカウント：

Facebook：[facebook.com/japansociety](https://www.facebook.com/japansociety)

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)（英語） / [@js\\_desu](https://twitter.com/js_desu)

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

住所 333 East 47<sup>th</sup> Street (1 Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017

最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 / ウェブサイト [www.japansociety.org](http://www.japansociety.org)

\*\*\*

\*「現代日本の戯曲：英訳リーディングシリーズ：『こしらえる』は公益財団法人セゾン文化財団からご支援をいただいています。

\*本プログラムのためのリサーチは岸田國土戯曲賞の主催者である白泉社にご協力をいただいています。

\*\*\*

\*2021-2022 年度の JS 舞台公演部は、  
以下の財団・基金・企業および個人より支援・後援をいただいています。

筆頭支援企業  
MetLife Foundation

The New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council, the New York State Council on the Arts with the support of the Office of the Governor and the New York State Legislature

支援者・支援団体

Doug and Teresa Peterson, with endowment support from the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment

基金

The Endowment for the Performing Arts, established with a leadership gift from the Doris Duke Charitable Foundation.

その他の支援

Helen and Kenneth A. Cowin, Dr. Jeanette C. Takamura, Dr. and Mrs. Carl F. Taeusch II, Mr. Alan M. Suhonen †, Sarah Billinghamst Solomon and Howard Solomon, Paula S. Lawrence, Dr. Stephen and Mrs. Michiko Levine, Marjorie Neuwirth, Hiroko Onoyama, Lyndley and Samuel Schwab, and Nancy and Joe Walker

† 追悼

協力

全日空

JS 公式ピアノはヤマハ株式会社様のご提供になります。

MetLife Meet the Artist Reception は MetLife Foundation のスポンサーにて開催いたします。

###